

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ(さつき棟)		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	平成27年2月5日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントの風景も感じられ山や海に囲まれたのどかな環境にあります。
 さつき棟・もみじ棟の2ユニット併設しており居室のベッドは利用者も馴染深い畳を使用しており畑や花壇があり基本理念でもある家庭の雰囲気を感じられ利用者個々の意思やペースを尊重しながらこれまでと変わらない暮らしの継続、利用者本位のケアを心がけています。
 職員個々も活発な意見や自主的な取り組み資格取得を目指したりと向上心が見られるようになってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県南の温暖な気候が海や山の幸をもたらし、2ユニット18名の入居者の日々の暮らしに彩と豊かさを与え、職員と共に穏やかに暮らしている。年度当初に今一度、理念を掘り下げて検討し、「家庭的な雰囲気」とは、どういうものなのか？全職員が入居者の目線からホームでの生活を見つめることで自身のあり方を振り返る機会としている。管理者は地元小学校での認知症啓発活動で持てる力を発揮し、行政が主導する福祉事業所の地域ケア会議で、他の事業所から得られた成果を持ち帰り運営に活かしている。新年度は家族とのコミュニケーションを更に深めるために、機会あるごとに会話の場を持ちたいと意欲を語っている。職員の目に付く場所には、人として大切にすべき目標となるようなメッセージが掲示されており、職員の道しるべとされることを願いたい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度初め(4月)理念についての勉強会実施。理念を細かく分けそれぞれの考え方や思いを出し合いながら共有確認を行った	昨年の外部評価後、今一度理念を見直そうと全職員で分析を行い、理念につづられている「家族的な雰囲気」とはどういうことなのか？各自が言葉に込められた意義を振り返っている。管理者は入職希望者に対し、短時間の面接の中にも、人に関わる仕事であるからこそ、その人となりをしっかりと見るように努めている。	新年度を迎えるにあたり理念について、運営推進会議などで再度啓発する機会を持ち、地域へ発信していただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にはできる限り参加するようにしている。また要望時でもできる限り応えるよう努めている	入居者は地元のまつり(ふれあいまつり・夏なつり)に職員と共に参加し、桜やコスモスなどの花見学には、地域資源を活用して戸外へ出る機会を持っている。認知症サポーターとして地域貢献に関わる管理者は小学校での啓発活動で、分かりやすい内容を選択して理解を促し、職員が同業者による交換研修に参加して自己研鑽を積みながらホーム運営に反映させている。	交換研修は他事業所の取り組みを知るきっかけの機会であり、参加した職員の報告書に留めず、ぜひミーティングなどで紹介する場を設けていただきたい。地域の中の事業所として職員の志も高まっていくと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と介護職員(計2名)は認知症サポーター養成講座の一員であり年数回、地域の小・中学校を中心に活動している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業所運営及び利用者関連の報告を行っている。これまで管理者のみだったが今年度より他職員も少しずつ出席するよう努めている	会議は併設事業所との合同開催となっており、各部署の近況が報告された後、参加者から意見を求めている。今年度は可能な限り管理者と共に他の職員も会議に参加することで、ホームの職員としてサービスの向上へ意識を高める機会としている。	現在、家族の代表者が不在の状態であり、一人でも多くの方に参加してもらうためにも、呼びかけは全家族に向けて対応されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議員には行政職員もあり、町で行われる地域ケア会議にも管理者が出席して情報共有に努めている。	行政機関が徒歩圏内という恵まれた環境にあり、書類提出や相談事にも気軽に足を運び、信頼関係を築いている。町の福祉関係者が集う毎月の地域ケア会議では、互いの情報を交換し、事例検討でケアのあり方を共に考えるなど、地域連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の鍵の開放など基本的なことはできている。またスピーチロックなど意向を拒むようなことも気にかけている。今年度(6月)も身体拘束の勉強会実施	職員は身体拘束についての勉強会で認識を共有し、拘束のないケアに取り組んでいる。特に、スピーチロックについては、入居者の行動の制限や精神的圧力にもなることから、職員一人ひとりが心して対応するよう気を引き締めている。	入居者の危険をとまなうような場合にはとっさの判断が優先されるが、日々の関わりにおいては言葉のトーンで受ける側に様々な影響を与えることなど、より掘り下げて研修されると更に尊厳に繋がる支援が徹底されるものと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても今年度(6月)勉強会実施。資料を使って基本的な項目を再確認した		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は関連研修の機会はあるが全体的に認識がない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時も書面等で説明しており都度対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は都度職員間で話し合い共有に努めている。また意見等はいろんな会議での報告や今年度は家族会実施できなかったのが今後の課題と思う	家族が訪れやすい、話しやすい雰囲気を心がけ、職員は家族が来訪した際は、健康状態をはじめ近況の報告を行い要望等を確認している。また、入居者の要望は食べたい料理や外出など、自身の言葉で出される方もおられるがそうでない入居者には努めて、日々の関わりの中で選択肢を投げかけコミュニケーションの中から把握するように心がけている。管理者は家族会やバーベキューが天候で開催できなかったため、時期についても検討していきたい意向である。	家族会の開催により、コミュニケーションや信頼関係を深め、意見や要望を出される機会となることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース会議でも意見の機会があり勤務時間や職員配置その他の要望等検討し柔軟に対応している	ケース会議や日々の申し送り時などにも意見を確認しており、出された内容によっては管理者より代表者に報告を行い改善される体制となっている。また、働きやすい職場環境については、労務士にも相談しながら育児休暇取得など環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の役割や職務の分担、また労働環境等も含めた処遇改善やその他整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員数やシフトでなかなか参加が難しい状況だがグループホーム関連の研修や資格取得のための研修等は確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームブロック会に参加、毎年交換研修や講習を行っている。また町の福祉担当者による懇親会や地域事例検討会などにも毎回数名参加している		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は面談にて要望等聞きながら対応等の確認をしながら安心できるよう努めている。また見学も進めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は面談にて要望等聞きながら対応等の確認をしてお困っていることなどはできる限り応えられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談や関係者からの情報収集、情報提供書にて対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調や状態を見極めながら、さりげなく役割や自立支援を促している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月お便りなどで近況報告、定期受診も可能であればご家族にお願いしたり状況によりホーム対応したりしている。ご家族に関しては面会時間も制限せず宿泊も実施。毎年バーベキュー会も継続		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月の帰宅や外泊の実施、かかりつけ医の継続、行きつけの美容室利用、その他お歳暮の支援など実施している	家族や知人の来所時には個人別の面会簿を使用し、情報の保護に配慮しながらゆっくり過ごしてもらうよう努めている。職員は遠方の家族にも面会の機会を依頼して、入居者の思いを代弁したりお盆・正月の帰省や泊りの支援を後押しし入居者にとって何より必要な家族との絆を大事にしている。歌の好きな入居者には音楽番組を録画し、リビングで馴染みの曲を一緒に口ずさみひと時を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル配置や性格を配慮しながら状況によって臨機応変に対応している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される方には担当者や医療機関等その他それぞれの状況に応じて情報提供やできる限りの協力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方が多くできる限り意向に合わせ本人本位に生活できるように努めている。場合によりご家族にも協力を促している	入居者の多くは自身の言葉ではっきりとした意思表示をされており、その都度検討しながらプランに反映している。表現困難な方には寄り添いのケアから思いを汲み取ったり、家族に意見を求めながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族に生活歴や暮らし方を確認しながら情報収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のケース会議や送り、経過記録、伝達簿等で把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族等に要望を聞きながら作成。自立支援や意向に沿った計画を心がけている	本人や家族の暮らしへの希望を具体化しプランを立案している。3ヶ月ごとのモニタリングで評価表に網羅された「生活の場としての居心地」や「職員の対応」「本人自身の変化」など、項目ごとに入居者の現状と照らし合わせ支援内容を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残し共有、ケース会議等で話し合いながら実践へつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応じて散髪や受診など臨機応変に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、美容室、商店など活用。花を植えたり作物も実施		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞きながらこれまでのかかりつけ医を継続している。	入居前のかかりつけ医を継続して支援しており、相談があれば応じ一緒にかかりつけ医を決定している。受診はできるだけ外出支援も兼ねて家族に依頼しているが、困難な場合はホームでも対応しており結果は双方で共有を図っている。職員は日々のバイタルチェックや表情から異常の早期発見に努めており、「目がかすむ」などの言葉を発せられた場合は、転倒の危険もあるため早期の眼科受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関に報告・相談、必要な場合は書面にて情報提供や血圧表など提示している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成している。定期的にお見舞いや洗濯支援を行い、状態確認に努めている。状況によりご家族も交えた話し合いを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体制上での対応困難な場合など説明はしている。話し合いが必要な状況では意向もふまえて担当者等との話し合いを行い受入れ先の確保などできる限り協力している	現在はホームの現状で出来る支援に努めており、看取りに関する指針を作成中であり、新制度に変わる時点で重要事項に合わせて家族への説明を行う予定である。これまでホームでの看取り支援はないが、重度化の支援に努めている中、急変などで医療機関に入院の後亡くなられた事例があり、職員はあらためて日々の入居者との関わりの重要性を振り返る機会となったようである。	終末期支援に関してはとても繊細なものであり、看取り指針作成後は、本人・家族の思いを汲み取りながら丁寧な説明を行っていただきたい。また、縁あって入居された方々にとって、これからも最良の時間が過ごせるホームに尽力いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応(8月)についても勉強会実施。経験機会が少ないため不安はあるが連絡対応等は決めている。普通救命講習も数名受講した		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いに元、夜間想定を中心に通報・避難訓練実施、隣接施設との協定もしている。日々の点検も点検表にて実施。防火管理者も2名となり体制を整備した	これまで夜間を想定した訓練が中心であったため、今年度は6月に消防署の参加を得て夜間に、1月に昼間想定自主訓練を実施している。火元はあえて伝えず、報告器をならした後、担当者が場所を決定し避難するなど工夫をしながら実施している。消防署からの総評で誘導の声が大きくスムーズであったことや、指導点として①避難が済んだ部屋の戸を閉める、②どういう対応をするかイメージを持っておくことが指摘されている。管理者は近隣に民家はないことから、今後も隣接施設との協力体制を深めていきたいと語っている。	火災対策に加え、自然災害についてもまずは机上訓練等に取り組まれることが期待される。また、備蓄物については内容や期限など職員間で共有されることが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や性格を配慮して言葉使いなど気をつけている。車椅子の方がプライバシーを保てなかったトイレにもカーテンで対応。個人情報については入職時に誓約書にて周知に努める	入居者一人ひとりの心豊かな暮らしを支えていくことを理念の中に掲げ、人格や性格に配慮した対応を共有している。また、管理者は接遇に繋がる文章や文言があった際は、職員の目につくところに掲示し自らも律しながら職員への啓発に繋げている。入居時には個人情報の使用について説明を行い、職員の守秘義務についても入職時や会議の中で周知徹底が図られている。	管理者は入居者を尊重したケアについて共有に努めているが、職員の言葉掛けが気になる場面が見受けられると語っている。今後は職員間で身近な内容の月目標を決定し、入居者が人生の先輩である事を忘れず日々の支援にあたっていただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々でも関わる時間を持ち思いを言えるような環境設定に努めており馴染みの関係作りにも励んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に起床や食事の時間は決めておらず、日頃は特別な日課もない。買い物に行ったり個々のペースで自由に生活している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室でのパーマかけや希望に応じた髪染め支援、日頃の服装など本人に決めて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連においてできる部分を把握し役割を持って頂いている。個々のペースに合わせながらも職員も一緒に食事している。	調理専任者が中心になって日々の食事が作られており、ミキサー食やキザミ、苦手な食材の代替えなど個々の状態に応じ提供され、職員も一緒に食事を摂っている。肉・魚は地元商店から配達され、他の食材は職員や専任者が購入に出ている。入居者にとって食事は楽しみの一つであり、誕生会の際は、希望メニューを取り入れたり、花見弁当を持っての外出も行っている。	エプロンの使用を否定するものではないが、圧迫感のない使用方法や食事終了後は速やかに外すなど、細やかな対応も必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはある程度バランスを考えて作成している。食事・水分量は毎回記録しており定期的なWT測定実施。個々に合わせた用具等の活用や食事形態、必要に応じて尿量測定など。ミキサー食の方は隣接施設の栄養士に頼んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でされる方が多いが不十分な所は支援。週1回の義歯洗浄と協力歯科医院の利用など		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を実施している。夜間も状態を見極めながらオムツではなくポータブルトイレでの排泄と心がけている	入居者の状態に応じた排泄用品や声かけ・誘導により、可能な限りトイレでの排泄支援に努めている。また、入居前はおむつを使用されていた方にも安易に継続することなく、職員の連携によるトイレ誘導は残存機能維持や家族の排泄用品の負担軽減ともなっている。夜間使用される方のポータブルトイレは、朝の洗浄後は内ケースは毎日、外枠も週1回は日光干しが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に毎朝ヨーグルトを提供している。かかりつけ医の相談や必要に応じて緩下剤の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中が主となっているが、できる限り曜日は指定せず、入浴剤や冬場は浴室暖房などで環境にも努めている	日中を中心に可能な限り曜日は指定せず、週3回程の入浴や必要に応じた足浴支援を行っている。冬場は特に浴室や脱衣所の温度管理が徹底されている。今年度は地域の温泉施設で家族風呂も楽しめたようである。浴室内は掃除や物品の整理も徹底しており気持ちよく入浴できる空間となっている。菖蒲や柚子湯はこれまで同様、季節の行事として実施されている。	今後は季節湯支援の際は、啓発のポスターなどを掲示することで、入居者の楽しみや来訪した家族との会話にも繋がっていくと思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態から昼間の過ごし方を考慮している。1時間程度の昼寝は健康にも良いことから時には促している。布団干し表の活用での定期的な日干し、洗濯など		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬手帳は個別に管理。変更時などは状態観察にて必要時は医療機関に相談をしている。お薬は二重確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割後の「助かりました」などの声かけを意識している。季節の行事や行事食、キッチンに飴玉を置いたりしている。おやつは選んで頂いたり地元名物の饅頭提供などしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力して頂き受診帰りの外食など数名実施している。また自宅に行きたいなどの要望はできるだけ応えるよう努めご家族にもお願いしている。	自身から外出を希望される方は少ないが、ホーム周辺はゆっくり散歩を楽しめる環境に有り、外気浴を兼ね身近な外出支援に努めている。ドライブをはじめ、「家に帰ってみたい」と要望された方に対して、鍵がなく部屋の中には入れなかったものの、家の周りを歩いたことで安心してもらうなど個別の要望に可能な限り取り組んでいる。また、温泉や外食など家族との外出を楽しまれる方もおられる。	高齢の入居者にとって、盆や正月という節目は特別なものであり、ホームも可能な限り自宅への帰省や家族との外出の機会を促している。今後も地域や家族の協力を得ながら外出の機会が展開されていくことに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問パン屋に来ていただき支援しながらご本人で購入している。またそれぞれ小口金としてお預かりし日用品や本など希望時に購入している。預り金は毎月明細を送付している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話支援は個々に対応し状況により居室でゆっくり話したりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は温湿度計にて管理している。季節ごとの飾り付けなども取り組んでいる。空気清浄器での感染防止に配慮している	それぞれのユニットが小まめな換気や空域清浄機を活用しながら入居者の状態に応じた温湿度管理に努めている。テーブルやソファも固定せず、状況によって配置を検討している。ホームは桜やイチョウなどの樹木から季節の移り変わりを居ながらにして感じる事ができ、入居者は玄関や裏庭でもゆっくりと寛ぎの時間を持たれている。また、職員用トイレには、職員の言葉や対応も入居者の環境に繋がることを促す文章が掲示されている。	職員と一緒に入居者の中には、床の掃除を手伝われるなどホームの環境に一役を担われている。今後も物的な環境に限らず支援する職員の優しい対応が居心地の良いホームに繋がっていくものと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの分散配置や状況により配置換えを臨機応変に実施。廊下にもソファを置いたりユニット間は自由に行き来できるようにしている。時には事務所で過ごされたりしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの物使い慣れた物など自由に持参するよう促している。人形や仏壇を持参している方もいる	家族の中には「こんなものは持ってきたらいけないのでは？」と、遠慮されることを察して、何でも必要な品を持ち込んでかまわないことや、不明な点は相談して欲しいと伝えている。衣替えなど家族にも協力を依頼しながら一緒に過ごしやすい環境に取り組んでいる。また、職員はチェック表を確認し、定期的なシーツの洗濯や布団干しを行い、気持ちよく就寝できるように努めている。昼食後、陽当りの良い居室に戻り、いつものように布団で昼寝をされる方の心地よさそうな表情が印象的であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室などは掲示している。ホーム内はバリアフリーでギャッチベッドが必要な方も贈与して頂いたりして自立や安全に配慮している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社 グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ(もみじ棟)		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	平成27年2月18日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントの風景も感じられ山や海に囲まれたのどかな環境にあります。
 さつき棟・もみじ棟の2ユニット併設しており居室は利用者也馴染み深い畳を使用しており畑や花壇があり基本理念でもある家庭の雰囲気が感じられ利用者個々の意思やペースを尊重しながらこれまでと変わらない暮らしの継続、利用者本位のケアを心がけています。
 職員個々も活発な意見や自主的な取り組み資格取得を目指したりと向上心が見られるようになってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度初め(4月)理念についての勉強会実施。理念を細かく分けそれぞれの考え方や思いを出し合いながら共有確認を行った		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にはできる限り参加するようにしている。また要望時でもできる限り応えるよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と介護職員(計2名)は認知症サポーター養成講座の一員であり年数回、地域の小・中学校を中心に活動している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業所運営及び利用者関連の報告を行っている。これまで管理者のみだったが今年度より他職員も少しずつ出席するように努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議員には行政職員もおり町で行われる地域ケア会議にも管理者が出席して情報共有に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の鍵の開放など基本的なことではできている。またスピーチロックなど意向を拒むようなことも気にかけている。今年度(6月)も身体拘束の勉強会実施		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても今年度(6月)勉強会実施。資料を使って基本的な項目を再確認した		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は関連研修の機会はあるも全体的に認識がない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時も書面等で説明しており都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は都度職員間で話し合い共有に努めている。また意見等はいろんな会議での報告や今年度は家族会実施できなかったもので今後の課題だと思う		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース会議でも意見の機会があり勤務時間や職員配置その他の要望等検討し柔軟に対応している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の役割や職務の分担、また労働環境等も含めた処遇改善やその他整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員数やシフトでなかなか参加が難しい状況だがグループホーム関連の研修等は確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームブロック会に参加、毎年交換研修や講習を行っている。また町の福祉担当者による懇親会や地域事例検討会などにも毎回数名参加している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は面談にて要望等聞きながら対応等の確認をしながら安心できるよう努めている。また見学も進めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は面談にて要望等聞きながら対応等の確認をしており困っていることなどはできる限り応えられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談や関係者からの情報収集、情報提供書にて対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調や状態を見極めながら、さりげなく役割や自立支援を促している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月お便りなどで近況報告、定期受診も可能であればご家族にお願いしたり状況によりホーム対応したりしている。ご家族に関しては面会時間も制限せず宿泊も実施。毎年バーベキュー会も継続		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月の帰宅や外泊の実施、かかりつけ医の継続、理髪店利用など実施している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル配置や性格を配慮しながら状況によって臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方には担当者や医療機関その他それぞれの状況に応じて情報提供やできる限りの協力をしている。自宅に帰られた方は訪問や相談等も行った		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方が多くできる限り意向に合わせ本人本位に生活できるように努めている。場合によりご家族にも協力を促している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族、民生委員などに生活歴や暮らし方を確認しながら除法収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のケース会議や申送り、経過記録、伝達簿等で把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族等に要望を聞きながら作成。自立支援や意向に沿った計画を心がけている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残し共有、ケース会議等で話し合いながら実践へつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズに応じて散髪や受診など臨機応変に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、理髪店、商店、民生委員など活用。花を植えたり作物も実施		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞きながらこれまでのかかりつけ医を継続している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関に報告・相談、必要な場合は書面にて情報提供や血圧表など提示している。状態により受診困難な場合の訪問看護利用等臨機応変に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を作成している。定期的にお見舞いや洗濯支援を行い状態確認に努めている。状況によりご家族も交えた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体制上での対応困難な場合など説明はしている。話し合いが必要な状況では意向も踏まえ担当者等との話し合いを行い受入れ先の確保などできる限り協力している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応(8月)についても勉強会実施。経験機会が少ないため不安はあるが連絡対応等は決めている。普通救命講習も数名受講済。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの元、夜間想定を中心に通報・避難訓練実施、隣接施設との協定もしている。日々の点検も点検表にて実施。防火管理者も2名となった		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や性格を配慮して言葉使いなど気をつけている。個人情報については入職時に誓約書にて周知に努める		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別でも関わる時間を持ち思いを言えるような環境設定にも努めており馴染みの関係作りに励んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に起床や食事の時間は決めておらず日頃は特別な日課もない。買い物に行ったり個々のペースで自由に生活している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理髪店や服装など基本的に本人に決めて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連においてできる部分を把握し役割を持ったり状況を見ながら促したりしている。個々のペースに合わせてながらも職員も一緒に食事している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはある程度バランスを考えて作成している。食事・水分量は毎回記録しており定期的なWT測定実施。個々に合わせた用具やお粥・刻みなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でされる方が多いが不十分な所はお手伝いしている。週1回の義歯洗浄と個々に合わせた用具を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を実施している。夜間も入居前はオムツ使用されていた方でも支援することでトイレでの排泄と心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に毎朝ヨーグルトを提供している。かかりつけ医への相談や必要に応じて緩下剤の調整、リハビリも兼ねた運動もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中が主となっているができる限り曜日は指定せずに努めている。入浴剤や冬場は浴室暖房などでの環境設定、近くの温泉利用、処置など必要な方のほぼ毎日の足浴など実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態から昼間の過ごし方を考慮している。健康のため1時間程度の昼寝の促しやリビングソファでの休息、布団干し表で確認し定期的に洗濯や布団干しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬手帳は個別に管理。変更時などは状態観察にて必要時はかかりつけ医や医療機関に相談している。お薬は二重確認するようにはしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割後の「助かりました」などの声かけを意識している。季節の行事や行事食も行っている。おやつは数種類から選んで頂いたり地元名物の饅頭提供などしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり外出を希望される方は少ないが帰宅要求がある方に対して意向に沿えない場合はドライブなど気分転換に努めてはいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれ小口金として預かっており日用品など必要なものを都度買い物で購入している。預り金は毎月明細を送付している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話支援は個々に対応し状況により支援や居室でゆっくりお話しして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は温湿度計にて管理している。季節ごとの飾り付け、音や光に不安が見られる方にはテープで目立たないようにしたりエアコンは設定調節にて対応している。空気清浄器での感染防止にも努める		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの分散配置や状況により配置変えを臨機応変に実施。廊下にもソファを置いておりユニット間は自由に行き来できるようにしており別ユニットで過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの物や使い慣れた物など自由に持参するよう促しタンスやTVなど持ち込まれる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室は掲示している。ホーム内は全面バリアフリーで個々での福祉用具活用な対応している		